

シグマ研究委員会 核データ専門部会
核データ評価W.G. 重核S.W.G, 実験法評価S.W.G
1983年度第4回会合議事録

日 時 1983年10月27日(木) 13:30 - 17:30
場 所 原研本部第7会議室
出席者 浅見, 菊池, 中島(原研), 神田, 大沢(九大), 松延, 浅野(住原工),
村田, 川合(NAIG), 瑞慶覧(日立), 今西(F.I.P:オブザー
バー)

配布資料 HN-83-6; JENDL-2 Comment file 作成の現状。
HN-83-7; 大沢; Coupled channel model の重核評価への適用。
HN-83-8; 菊池, 今西; CASTHY コードと ECIS コードの結合。

議 事

1. JENDL-2 の報告書
 - file 1 の document part を 10 月までに提出する事を確認。
 - final document も急ぐ事を確認。
 - ファイル化W.G. で評価データのプロットを行い近くM-report に刊行する。
 - 実験値との比較はルーズリーフ型式で発刊予定。
2. JENDL-3 評価体制
 - 事務局より, 運営委員会等での議論が紹介された。
 - ・ JENDL-3 の期限は 1986 年であり, 予算がついているので延期はできない。
 - ・ 評価者はこのスケジュールを常に念頭において欲しい。
 - ・ 委託等の予算措置にも努力する。
 - ・ 評価分担を早急に決め, 評価すべきデータを確認する。
 - ・ ファイル作成W.G. を常置グループにする。
 - ・ JENDL-3 作成状況を watch する Advisory group を運営委内に作りたい。
 - 以上に対しシグマ委員会の volunteer としての立場との関係について議論がなされた。その結果評価担当者が集って議論をすべきだという結論になった。
3. Coupled Channel Model の重核評価への適用。
 - HN-83-7 に基き大沢氏より説明があった。

- Th の inel の不一致の原因を究明
- Coupled Channel と H-F の組合せで計算
- 4. CASTHY コードと ECIS コードの結合
 - HN-83-8 に基き今西氏から説明があった。
 - 両コードを組み合わせた CASECIS について議論をした。
- 5. 同時評価の実行
 - 実験値のコバリエンスを決める必要がある。
 - 実験法評価 SWG が manual を作成する。
 - 各評価者は中心になる実験値の実験法を review しておくと共に、その文献を実験法評価 SWG へ伝える。
 - 実験法評価 S.W.G. で検討し Covariance の作り方を決める。
 - 次回の合同会合で、そのやり方を評価者に伝える。